鞠智城跡

発掘調査資料

2005年3月

熊本県教育委員会

鞠智城跡発掘調査資料

2005年3月

熊本県教育委員会

目　　次

Ⅰ．発掘調査の成果と概要 …… 1
1. 長者原地区の調査 …… 1
2. 貯水池跡の調査 …… 1
1）貯木場跡 …… 1
2）取水口跡 …… 1
3）水汲み場跡（木組遺構） …… 1
4）堰堤跡 …… 2
5）遺物 …… 2
3. 堀切門跡の調査 …… 2
1）門跡について …… 2
2）登城道について …… 2
3）城壁 …… 2
4. 南側土塁線 …… 2
5. 長者山西地区 …… 3

Ⅱ．発掘調査資料 …… 7
1. 鞠智城跡遺構配置図 …… 9
2. 32号（八角形）建物跡 …… 10
3. 56号建物跡 …… 11
4. 60号建物跡 …… 12
5. 貯木場跡（貯水池跡） …… 13
6. 木組遺構（貯水池跡） …… 14
7. 瓦当、1号木簡 …… 15
8. 宮野礎石地区全景 …… 16
9. 貯水池跡トレンチ配置図 …… 17
10. 貯木場跡遺物出土状況 …… 18
11. 取水口、石敷遺構、堰堤 …… 19
12. 堀切門跡（登城道） …… 20
13. 深迫門跡、堀切門跡 …… 21
14. 堀切門跡（城壁） …… 22
15. 南側土塁線 …… 23
16. 南側土塁線（模式図） …… 24

Ⅰ．発掘調査の成果と概要

1．長者原地区の調査

長者原地区においては、昭和42年度より発掘調査を実施し、現在までに72棟の礎石建物跡及び掘立柱建物跡を検出している。特に全国の古代山城において初の発見となる八角形建物跡（32号建物跡）を検出するなど、鞠智城跡の全容解明に向け貴重な資料を提供している。

これらの建物跡については、検出された遺構等の切り合い関係や出土した遺物等の検討から、概ね3時期に区分できることが判明している。

また、60～65（66）号建物跡のように、建物の柱穴の規格や柱痕跡の規模、建物の配列の特徴等から、他の建物跡と性格付けが異なる可能性が指摘される。このことは、当該地点において出土した刀子、墨書土器や貯水池跡から検出された木簡や円面硯の脚部破片の存在と併せて、役所的な施設が存在したことを示唆するものである。

このことから、今後「鞠智城跡の性格は、果たして国家防衛のための古代山城のみであるのか」といった問題についても解明を図っていかなければならない。

2．貯水池跡の調査

平成9年度確認調査を実施し、長者原地区北側に位置する谷部において青灰色粘土層[*註]を検出した。

*註）同粘土層の成因については、熊本県水保全対策室 田北成樹氏、千代田工業株式会社 古澤二氏に依頼し、水成層であるとの御教示をいただいた。

1）貯木場跡

28トレンチA，B地区において確認。両地区における建築材の種類には、違いが認められる（第20次）。

・A地区ー大型の建築材

先端に鎹継の継手加工がある材には、先端より約296cmの位置にほぞ穴の仕口加工が施される。（桁材としての使用が考えられる）

・B地区ー細材

＊細材は端部を揃え、束ねた状態で検出。（6つのまとまりを確認）

＊細材の束は、13～14本と22～33本のグループに2大別できる。

・出土した建築材については、水に浸ける工夫が認められる。

＊枕木を敷く、杭で止める、平瓦を載せる等。

・出土した木舞（こまい）は、直径2～5cm、長さ3ｍ以下に集中する。

2）取水口跡

池跡の屈曲部南西端に存在する小谷と池跡との境部に取水口を確認。断面観察で逆台形を呈する溝跡や斜面部に杭跡が確認され導水路の施設の一部であると考えられる。

注がれた水は、高まりをもつ**石敷遺構**で一時的に流れをゆるめ、中心部へと導かれたものと考えられる。

＊取水口粘土層から円面硯の脚部破片が出土。原位置をとどめるものではないが、鞠智城跡の機能の一端を示す資料である。

3）水汲み場跡（木組遺構）＊第22次

池南端部の湧水地点近くで検出。池跡に堆積した水成粘土下部の砂礫層を、略方形深さ約30cmに

掘り込み、その形状に合わせて木を組んで構築されている。

使用されている部材は転用材であり、表面に加工痕が認められる。特に、④の材は肘木の可能性が考えられる。③の材の端部寄りにえつり孔が穿たれており、河川を利用した建築材の供給等に派生する問題を含んでいる。

遺構の南側、木組隙間部分に大型の礫2個を使用している（足場の可能性）。

＊第21次調査で検出された2号木簡の出土層位は、当該遺構内部の覆土である。

4）堰堤跡　＊第22，23次

断面観察により確認した。堰堤は、台形状を呈し地山の直上に敷粗朶工法による基盤を築いていたことが確認された。その上面には、砂質土と粘質土を交互に入れ版築を行っている。断面東側で僅かに堰堤の崩落が認められる。その量から当時は僅かに高かったものと判断される。

＊池跡は、谷頭にあたる南側端部から北側端部に向け低くなり、その比高差は9ｍを測る。このことから、水量調節のためには複数の堰堤が必要と考えられ、今後の課題である。

5）遺物

貯水池跡からは、貯木場跡において検出された建築部材や横槌、鍬の膝柄、曲柄平鍬等の他に、木簡4点、円面硯の脚部破片を検出した。

特に、1号木簡は「秦人忍米五斗」の墨書文字が判読でき、鞠智城跡の性格を解明するうえで貴重な資料である。これらの木簡は、切り込みの形状がU字状に近い形態的特徴を有し、切り込みの位置も通常よりやや上端部に近い。このような形態的特徴を有するものは、平城宮跡出土の荷札のうち特異とされる西海道関連の調綿のものに類似する。

さらに、大宰府出土の荷札にも共通した形状のものが見られる。

3．堀切門跡の調査　＊第22次

平成9年度より発掘調査を実施し、門礎石の原位置及び構造、登城道のルート及び構造、城壁の構造について確認を行っている。

1）門跡について

第22次調査において、門跡に伴う柱穴1基が発見され原位置が確定した。柱穴は、一辺約80㎝の方形で、深さ約1ｍである。2/3程度は、新しい道路により破壊されている。その結果、径40㎝の柱痕跡が確認された。門の構造は、門礎石の両脇に2本の門柱を立てる形態と考えられる。

2）登城道について

これまでの調査の結果、4時期の道路面を確認した。このうち、Ⅰ～Ⅱ期が鞠智城の登城道であると考えられる。

Ⅰ期　凝灰岩を削り下面に平坦面、左右に壁面を造る。平坦面の上には粘質土を貼り硬化している。

道路跡の両端は凝灰岩の壁となり、凹道となっている。

硬化面の幅は、約2.15～2.7ｍで両側に側溝を設け（部分的には片側）、側溝の芯々間の距離約2.8～3.0ｍを測る。

Ⅱ期　20トレンチにおいて部分的に確認した。その詳細については、不明。

3）城壁

城壁の高さは19ｍで、勾配は45°を測る。15トレンチにおいて、城壁が途中中段をもって構築され、その中段テラス部には粘質土を貼っていることが確認された。

17トレンチからは、凝灰岩のブロック上に加工の際のものと考えられる工具痕が確認された。

4．南側土塁線　＊第23次

対象範囲は、尾根線（南側土塁線）のうち堀切門跡より西側100ｍの地点から北西端までの長さ約500ｍとし、やせ馬の背のような地形的特徴を呈する尾根線部分を選択し実施。

土塁線構造に関する成果は、以下のとおりである。

①やせ馬の背のような尾根線部分に推定された土塁線は、張り出した平坦面である

（B）の外縁部を巡るかたちで構築されている。

②土塁の構築方法には、（a）削り落とし、（b）削り落としと版築の併用、（c）版築の3種類が認められる。

③No.1トレンチにおいて、柵列に伴う可能性が考えられる柱穴が確認された（第16図）。

④No.2bトレンチの断面において、柵列に伴う可能性のある柱穴の痕跡が確認された（第16図）。

＊柱穴は、土塁線頂部のほぼ中央に設けられ、規模は一辺約70㎝を測る。

⑤No.5トレンチの断面観察から、旧地形の頂部を利用し、その西側外縁部に延ばすように版築を行い、土塁を構築している。

⑥No.2bトレンチにおいては、Aso-4を階段状に削り出した上に版築を行っている。

以上のことから、地形的特徴に応じた構築方法を選択し、土塁線を造り出していることが判明した。

5．長者山西地区　＊第23次

昭和40年代前半に削平を伴う造成工事が実施され、遺構は消失したと考えられていた箇所である。調査の結果、丘陵の南北端に掘立柱建物跡（総柱）3棟、礎石柱建物跡（総柱）1棟が検出された。

【69号建物跡】

南側端で検出。総柱の掘立柱建物跡（2×4間）。柱間は梁行180㎝、桁行195㎝を測る。柱掘方の平面形は、約70～90㎝×90～100㎝の方形・長方形を呈し、深さは検出面から約30～40㎝を測る。柱痕跡は径約25～35㎝である。

【70号建物跡】

北側端で検出。総柱の掘立柱建物跡（2×3間）。柱間は梁行195㎝、桁行195㎝を測る。柱掘方の平面形は、約70～90㎝×90～100㎝の方形・長方形を呈し、深さは検出面から約15～30㎝を測る。柱痕跡は径約25～35㎝である。

【71号建物跡】

北西端で検出。総柱の掘立柱建物跡。削平を受け柱穴3基の検出にとどまり全体構造は不明。

【72号建物跡】

北東端で検出。総柱の礎石柱建物跡（3×4間）。柱間は梁行210㎝、桁行210㎝を測る。礎石6個が残存し、外は抜き取り痕が確認された。石材は、凝灰岩及び花崗岩である。礎石周辺より多量の炭化物（米を中心）層が確認された。

鞠智城跡発掘調査の歩み

第1表　発掘調査の概要

調査年度	次	調査地区	検出遺構	概　　要	検査相談
S42	1 2	長者原 長者山	宮野礎石群	・米原台地の水田化工事（農業構造改善事業）、及び長者山の一部、開発に伴う緊急調査。 ・多量の礎石を検出。	鞠智城調査団
S43	3	長者原 長者山 西側土塁線	長者山礎石群	・昭和42年度の継続調査 ・多量の礎石が掘り起こされる。	鞠智城調査団
S44	4	長者原 長者山	宮野礎石群 長者山礎石群	・宮野礎石の露出、長者原礎石群の全面露出。 ・長者山の測量調査。	鞠智城調査団
S54	5	長者原 上原	掘立柱建物跡	・町道（立徳・神方線）改良工事に伴う事前調査。 軒丸瓦片が出土。	菊鹿町教育委員会
S55	6	上原	竪穴遺構（弥）	［文化庁国庫補助事業］ ・上原地区の調査	熊本県教育委員会
	7	長者原	宮野礎石群	・宮野礎石群の全面露出。 （昭和56年11月11日付けで県史跡に追加指定）	熊本県教育委員会
S61	8	米原		［文化庁国庫補助事業］ ・航空写真撮影による米原地区の地形測作成作業。	熊本県教育委員会
S62	9	長者山地区	45～48号建物跡	［文化庁国庫補助事業］ ・長者山礎石群の調査。多量の炭化米と瓦が出土。	熊本県教育委員会
S63	10	長者原地区 上原地区	11～15号建物跡 19号建物跡	［文化庁国庫補助事業］ ・中心部が礎石、周辺に掘立柱の柱を持つ建物跡を検出。 ・宮野礎石群周辺及び小鹿ドンの調査。 ・礎石建物のみでなく、掘立柱建物跡の存在を確認。	熊本県教育委員会
H元	11	長者原地区	1～4号建物跡	［文化庁国庫補助事業］ ・掘立柱建物跡3棟、礎石建物跡2棟を検出。	熊本県教育委員会
H 2	12	長者原地区	5,6号建物跡 7～10号建物跡 16～18建物跡	［文化庁国庫補助事業］ ＊県の自主事業による重要遺跡確認調査も加わって、調査面積は大幅に増大。 ・長者山東側麓部一帯（宮野礎石群を含む）の調査。	熊本県教育委員会
H 3	13	長者原地区	20～35号建物跡	＊継続して文化庁国庫補助事業と県の自主事業による重要遺跡確認調査を行う。 ・町道西側　一帯の調査。軒丸瓦が出土。 ・八角形建物跡2棟を検出。	熊本県教育委員会
H 4	14	長者原19,20区	36～44号建物跡	＊文化庁国庫補助事業と県の自主事業による重要遺跡確認調査を行う。 ・鞠智城の終末期にあたる9世紀代の礎石建物を検出。 ・上原地区から建物群の空白地域が見つかる。 ・「内城」の土塁線を測量。　一部で試掘を実施。	熊本県教育委員会
H 5	15	上原地区	51～54号建物跡	＊文化庁国庫補助事業として、重要遺跡確認調査を行う。 ・町道東側一帯（上原地区）の調査。 ・上原地区は、遺構の空白地帯であることが判明。	熊本県教育委員会
H 6	16	深道地区	版築土塁 登域道	＊文化庁国庫補助事業として、重要遺跡確認調査を行う。 ・谷部を閉じるように構築された版築土塁を検出。 ・登域道を検出。	熊本県教育委員会

H 7	17	95ー道路区 95ーⅠ区	D1号竪穴住居跡 D1号掘立柱建物跡 D2号掘立柱建物跡 D3号掘立柱建物跡 50号建物跡	・50号建物跡は、礎石基底部に根石を配して構築。 ＊同様の工法は、49号建物跡（宮野礎石群）、20～23号建物跡,38号建物跡の一部に採用。	熊本県教育委員会
H 8	18	長者原Ⅱ区 長者原Ⅳ区 長者原Ⅵ区 長者原Ⅸ区	56号建物跡 1～3号上坑 56土坑1号 55号建物跡 57号建物跡 58号建物跡 1号不明土坑	・整地層を確認。 ・56号建物跡の整地層及び礎石掘り込み出土遺物のうち最も新しいものは、8世紀後半～9世紀前半。 ・同建物遺構下（4）層出土の遺物は、7世紀後半～9世紀前半の時間幅をもち、整地層の存在から、創建期の建物の存在する可能性有。 ・須恵器の高坏1個体が埋納。 ＊56,59,65号建物礎石の原材採集地の検討。	熊本県教育委員会
H 9	19	長者原Ⅲ区 長者原Ⅹ区 貯水池跡	40号建物跡 6,7号溝跡 59号建物跡 65号建物跡 60号建物跡 61号建物跡 62号建物跡 63号建物跡 64号建物跡 66号建物跡 貯水池跡	・59,64,66号（礎石）建物跡で、整地層が確認された。 ・建物群を区画する溝を検出。 ・40号建物跡→6号溝→7号溝（36号建物の整地段階には廃棄） ＊4時期に区分可能。 ・64号建物跡に伴う周溝から、百済系軒丸瓦（単弁八葉蓮華文）を検出。 ・1号水筒を検出。（秦人忍米五斗） ・建築材、横槌、銀の膝柄、曲柄平鍬等を検出。	熊本県教育委員会
H10	20	貯水池跡	貯水場跡 取水口跡 石敷遺構	・継手、仕口加工のある建築材を検出。 ・木舞、男性器形木製品、斧柄を検出。 ・小谷から水を取り込むための遺構を検出。 ・地山の高まりに礫を配置し、水勢を調節。	熊本県教育委員会
H11	21	貯水池跡 堀切門跡	貯水池跡 道路跡	・2～4号木筒を検出。 ・建築材を検出。木製品の膝柄を保管、貯水。 ・門周辺の道路跡を検出。道路跡は、最多で3面上下に重なる。	熊本県教育委員会
H12	22	貯水池跡 堀切門跡	水流み場跡 堀堤跡	・池跡南西端部を確認。 ・湧水地点において、井戸枠に該当する木組み枠を検出。 ・水流み場跡よりやや北側において、堀堤跡を確認（断面）。 ・登城道跡が伸びる方向を把握。 ・門礎石の原位置を把握。	熊本県教育委員会
H13	23	南側土塁線 長者山西地区 貯水池跡	版築土塁 68～72号建物跡 堀堤跡	・土塁の構造を確認。 ・版築、削り落とし、柱穴等を確認。 ・69,70号建物（掘立柱総柱建物跡）、72号建物（礎石総柱建物跡）。 ・水流み場跡よりやや北側において、堀堤跡を確認（平面）。	熊本県教育委員会
H14	24	長者山西地区 貯水池跡	72号建物跡	・72号建物（礎石総柱建物跡）、炭化米堆積層。	熊本県教育委員会
H15	25	西側土塁線 貯水池跡	土塁	・土塁構造の確認。	熊本県教育委員会

［各年度の調査面積は、約5,000㎡である。］

鞠智城の研究略史

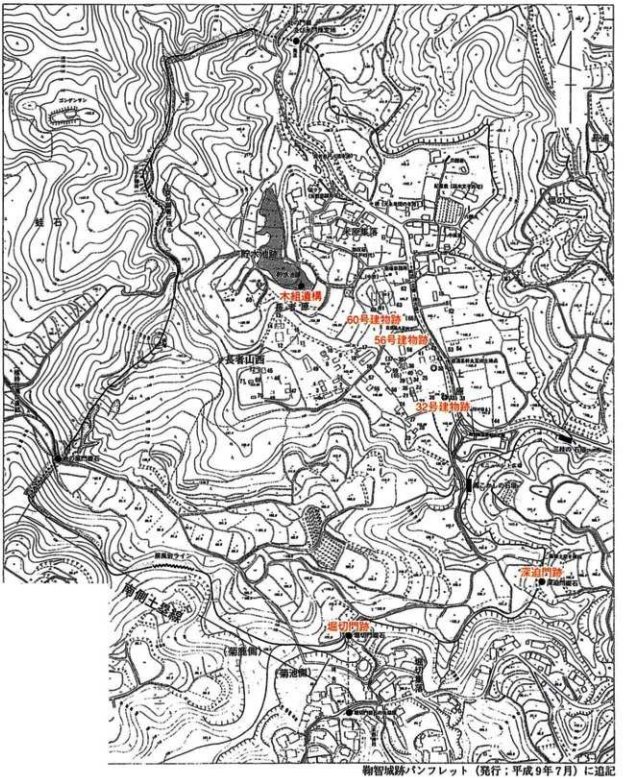
第2表　研究略史

時代		研究者	文献	概要
江戸		渋谷　公正	『菊池風土記』	『文徳実録』の「天安2年菊池郡不動倉11宇火」との記事を米原村長者屋敷に比定。
		八木田桃水	『桃元閃答』	「菊池の初代御隆以来の居城となった深川の菊之城は、鞠智城の旧跡を取りしつらひて居城としたとも考えられるが、城家の居城であった本庭村も鞠智城の旧跡か」と述べている。
		森本　一瑞	『肥後国誌』［明和9（1772）年］	深川説を否定して、鞠智城は兵庫や不動倉などを持っている官城であるので、隈府、水島、米原の一帯にわたる広大な地域を占むるものであろうとみている。
明治		吉田　東伍	『大日本地名辞書』	「鞠智城を辺地の肥後国菊池郡に求めるのは、大野城を豊後国大野郡に求めるのと同じである」と笑っている。
昭和		中島　秀雄	大阪毎日新聞	「米原の要害こそ続日本紀文武天皇2年5月、大野、基肄城とともに繕治された鞠智城であろう。礎石の並ぶ山、多くの礎石が出た畑、焦米が層をなして埋まっている畑、涼みヶ御所、鳥ヶ城、シャカンドン、紀屋敷、宮床、馬洗淵、長者井戸などの地名がある」と報じている。
		熊本地歴研究会		基肄城跡を踏査して米原における遺構と比較し、基肄城跡の研究者久保山善映氏や松尾禎作氏等も米原の遺構を踏査した。「長者の的石」は、朝鮮式山城の城門礎であることを確かめた。
	12		『地歴研究第10篇』5	「鞠智城址に擬せられる米原遺跡に就いて」を発表。
	17	坂本　経堯	『日本談義』vol.51	「鞠智城考」を発表。 鞠智城の文献を集録して性格を考え、米原高台に登る東、南、西の城門礎、本門礎、長者山の礎石調尺、土塁線などは朝鮮式山城の規模に類し、焦米の多量の埋没は、「…天安2年不動倉11宇火く…」の史実を物語っているとした。特に土塁線は自然尾根を利用して外側を切り落とし、鞍部にのみ盛土した状態であることに注意し、さらに土塁線は米原台地周辺だけでなく、これを内郭として塁線は頓合より木野丘陵を北に登って城北の谷をいただく外郭を形成することに注目した。
	13	松尾　修規		城北村史編纂委員会長。鞠智城跡を調査し、標木を建てて保護顕彰に努めた。
	28	鏡山　猛 （九州文化総合研究所）		10月、大宰府、大野城、基肄城の一連の調査として、「鞠智城の調査保護計画」を作成し熊本県に対して陳情を行うが実現しなかった。
	31	坂本　経堯		11月、熊本史学会で「鞠智城跡について」発表。
		滝川政次郎 （菊池古文化調査団）		8月、米原一帯の遺構を調査し、特に長者山の礎石列を実測した。
		島田　正郎		8月、菊池市において「高句麗国内城と鞠智城」について講演した。
	33	坂本　経堯	『熊本の歴史』熊本日日新聞社発行	9月、鞠智城を米原に比定し、掲載。
	34	熊本県教育委員会		12月、「史跡・伝鞠智城跡」として長者山礎石群、深迫門礎石を県史跡に指定。
	42	熊本県教育委員会		米原台地に計画された開発工事に伴い、乙益重隆を団長とする調査団による発掘調査を実施。
	51	熊本県教育委員会		8月24日付けで、名称を「鞠智城跡」と改称。

II．発掘調査資料

（図版・挿図）

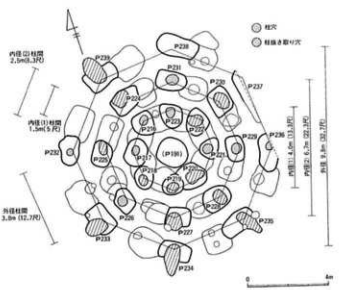
1．鞠智城跡遺構配置図



鞠智城跡パンフレット（発行；平成9年7月）に追記

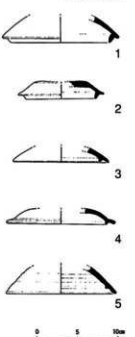
0　200m

2．32号（八角形）建物跡



柱穴No.	形状	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	柱穴(cm)	備　考
P216	内径(I)	やや歪な方形	123	107	40～47	
P217	〃	〃	137	107	40～44	
P218	〃	〃	116	98	44～58	
P219	〃	〃	109	98	48～65	
P220	〃	〃	〃	〃	〃	
P221	〃	歪な方形	103	95	47～51	掘形は楕側ですほぼる。
P222	〃	方形	123	111	62～98	
P223	〃	やや歪な方形	116	110	44～51	
P224	内径(I)	やや歪な長方形	156	113	〃	柱抜取り穴あり。71×77cm。
P225	〃	方形	122	97	47～68	
P226	〃	方形	111	91	59	
P227	〃	長方形	123	93	〃	柱抜取り穴あり。80×88cm。
P228	〃	やや歪な長方形	140	112	〃	柱抜取り穴あり。62×74cm。
P229	〃	長方形	126	85	52	
P230	〃	長方形	130	103	〃	柱抜取り穴あり。56×89cm。
P231	〃	長方形	153	95	51～61	
P232	外径	歪な長方形	137	80	33	
P233	〃	長方形	152	106	〃	柱抜取り穴あり。80×107cm。
P234	〃	長方形	167	138	〃	柱抜取り穴あり。73×128cm。
P235	〃	長方形	178	91	〃	柱抜取り穴あり。55×142cm。
P236	〃	歪な長方形	185	94	42	道路の側溝に切られている。
P237	〃	（道路の側溝に切られている）				
P238	〃	歪な長方形	202	110	〃	
P239	〃	歪な長方形	162	83～108	〃	柱抜取り穴あり。80×146cm。

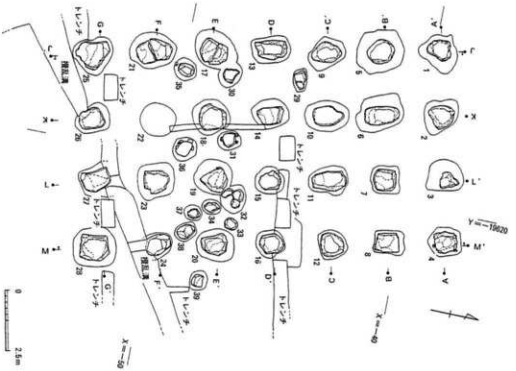
※参考資料



遺構周辺出土須恵器

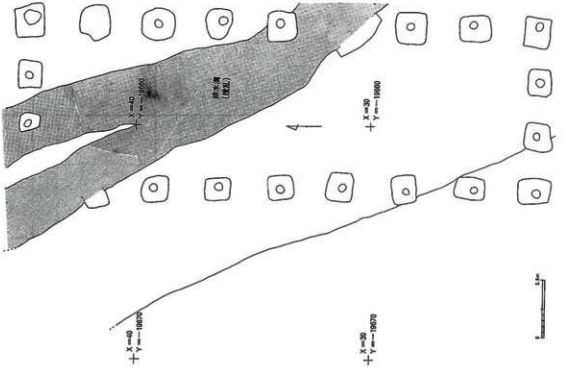
3．56号建物跡

（東から）



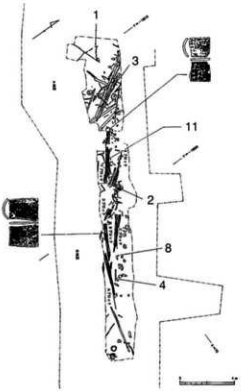
4．60号建物跡

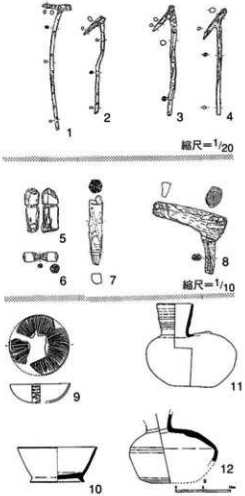
（北から）



5. 貯木場跡（貯水池跡）

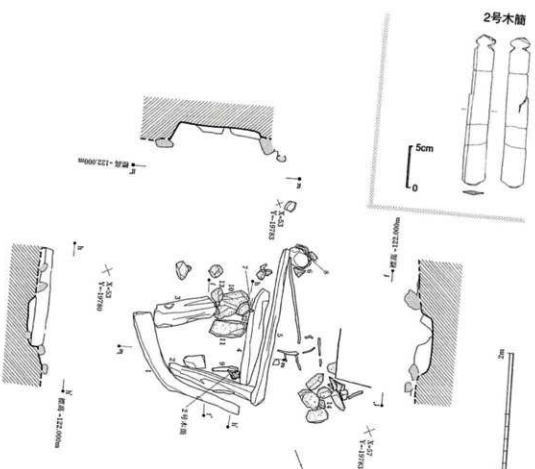
（南東から）



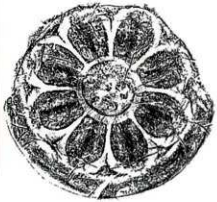


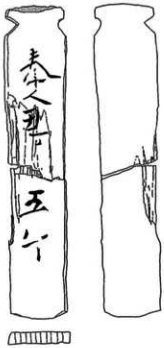
6. 木組遺構（貯水池跡）

（北東から）



7. 瓦当、1号木簡





釈文

「〈秦人忍□［米カ］　五斗」

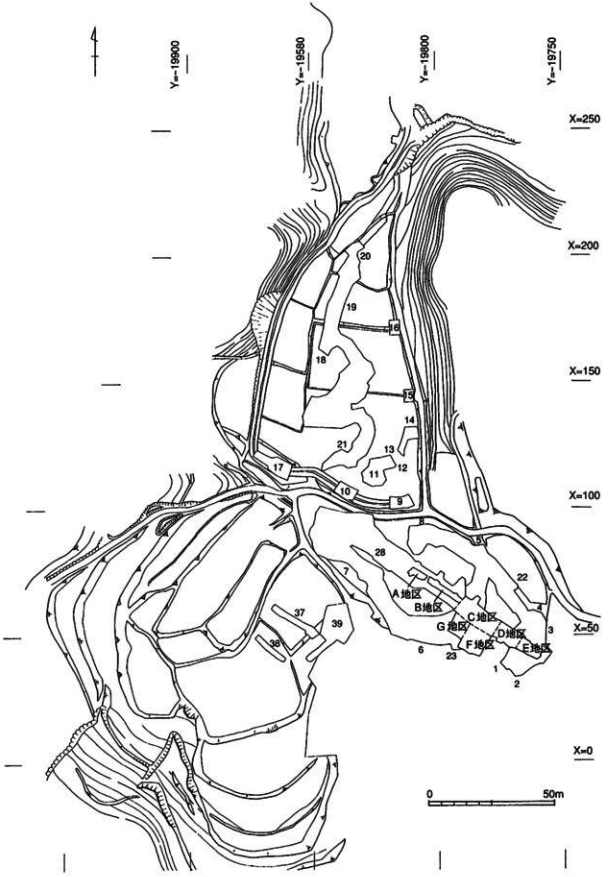
8. 宮野礎石地区全景

平成2年度発掘調査
宮野礎石地区全景

1号建物跡

11号建物跡

9. 貯水池跡トレンチ配置図



10. 貯木場跡遺物出土状況

貯水池跡28T－B地区
平瓶出土状況

貯水池跡28T－B地区
かつら出土状況

貯水池跡28T－A地区
木製品出土状況

11．取水口、石敷遺構、堰堤

貯水池跡7T
取水口

貯水池跡
石敷遺構

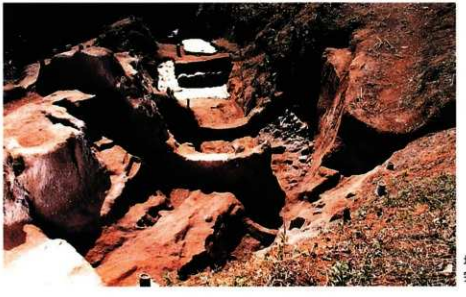
貯水池跡28T－C・F地区
堤防状遺構（堰堤）

12. 堀切門跡（登城道）

Y=-19730
Y=-19720
Y=-19710
Y=-19700
Y=-19690
X=-450
X=-460
X=-470
X=-480
X=-490
X=-500
X=-510
124.0
123.0
122.0
120
121.0
120.0
119.0
110.0
109.0
a
c
d
1
3
7
8(2)
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
4A
4B
4C
0
20m

13. 深迫門跡、堀切門跡

深迫門跡全景



堀切門跡16,20T
完堀状況

堀切門跡8T
道路跡

14. 堀切門跡（城壁）

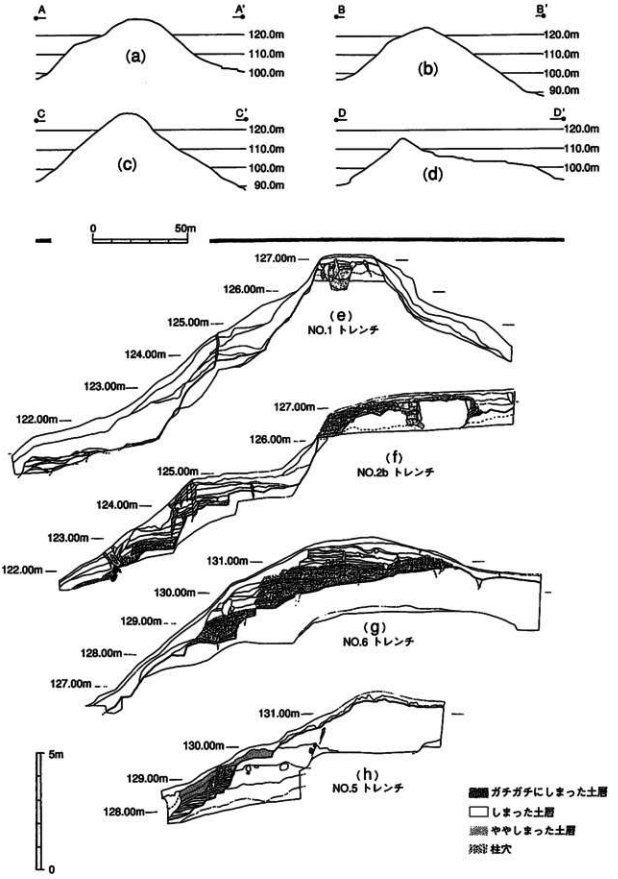
堀切門跡15T　城壁

堀切門跡17T　城壁
（凝灰岩　加工痕有）

15. 南側土壁線

Y=20200
Y=2000
X=200
Y=19800
X=400
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
B地点
C地点
D地点
A地点
0
100m

16. 南側土塁線（模式図）


A
A'
120.0m
110.0m
100.0m
(a)
B
B'
120.0m
110.0m
100.0m
90.0m
(b)
C
C'
120.0m
110.0m
100.0m
90.0m
(c)
D
D'
120.0m
110.0m
100.0m
(d)
0
50m
127.00m
126.00m
125.00m
124.00m
123.00m
122.00m
(e)
NO.1 トレンチ
127.00m
126.00m
125.00m
124.00m
123.00m
122.00m
(f)
NO.2b トレンチ
131.00m
130.00m
129.00m
128.00m
127.00m
(g)
NO.6 トレンチ
131.00m
130.00m
129.00m
128.00m
(h)
NO.5 トレンチ
5m
0
ガチガチにしまった土層
しまった土層
ややしまった土層
柱穴

鞠智城跡発掘調査資料

平成17年3月31日

編集発行　熊本県教育委員会
〒860-8609 熊本県水前寺6丁目18-1
TEL.(096)383-1111(代表)

印　　刷　株式会社トライ
〒861-0105 熊本県鹿本郡植木町味取373-1
TEL.(096)273-2580

この電子書籍は、鞠智城跡発掘調査資料（2005 年度版）を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：鞠智城跡発掘調査資料（2005 年度版）
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2024 年 7 月 20 日